

「長いこと都会に住んでいたせいか、田舎で暮らしたいと思うようになったんです」。帰郷して数年後、沖縄に移住した野口さんは陶芸家の道へ。その後再び古里に戻り工房を構えました。

スーパーキッド裏手で「つわぶき工房」を主宰する、陶芸家の野口文夫さんに出会いました。「看板も上げてないから、工房だと知らない人多くてね」と穏やかな人柄の野口さんは、東京のアパレル業界で長年デザインの仕事に従事し、23年前に古里に帰ってきました。

ありのままの自然の 美しさを求めて



利発で愛らしい権藤美樹さん

みの細かさや濃淡やぼかし方など、誰に教わることなく自分で思いついた技法というから驚きです。母の美穂さんは「娘が描きたい時に自由に描かせて見守っています」と美樹さんの才能ぶりに目を細めていました。



「つわぶき工房」は電話をしてから訪ねてください。090-3794-5036(野口さん)



女性に人気のポップな作品も手掛けています



優しくておだやかな人柄の野口さん



庭の野の花であしらった野口さんの生け花

野口さんが手掛ける作品は琉球焼きとは違い、着物の柄にヒントを得たり独特の花模様を描くなど、ポップでスタイリッシュな作風です。

自宅の一角を開放したギャラリーの入り口に、野趣ある生け花がしらえてありました。ネコジャラシ、フキの花、ホトトギスといったあしらいに、素朴な自然美が伝わります。野口さんは、「人も花もありのままが美しい」と提唱する華道・草心流に魅了された一人。週に1度ボランティアで、益城中央小で花を生けています。「児童から『いつもお花をありがとうございます』という手紙が届きます」とうれしそうにほほ笑みます。

ただ今、チャレンジ中

宮園にあるチャレンジショップ「キニナル」に、新しい顔ぶれがそろいました。

今年5月に「Reborn」というレストランをスタートさせた小松眞樹さんは、「ベースは和食です。きちんと取っただしと手作り調味料で作る、ワンプレートランチをご提供しています」と話します。

週替わりのワンプレートの内容は10種類で、特筆すべき定番メニューが「大羽いりこのお吸い物」。大きなイリコの頭と内臓を取り除き、丁寧に



料理にまつすぐな思いを向ける小松さん



「Reborn」 営/11時～15時30分、休/月・火、問/050-1720-8739



「お花のアトリエcocoro」 営/10時～16時、休/不定、問/090-8297-2830



小さいころから花が大好きだという園田さん

取っただしで作る小松さんの吸い物は風味豊か。どの料理も訪れる人たちの舌を満足させています。

もう一人が「お花のアトリエcocoro」を、先月オープンさせた園田吏都子さんです。ハーバリウムやリース、クリスマスや正月飾りなどのシーズンアイテムが並んでいます。

同店ではハーバリウムやリース、お飾りを作る体験もできます。「花の雑貨やオブジェを手作りする楽しさを伝えたい」という園田さんは、出張レッスンやワークショップのオーダーも受け付けています。